

【鹿児島県大島郡大和村】

大和村 1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1 1 人 1 台端末を始めとする I C T 環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「『令和の日本型教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和 3 年 1 月)等の内容並びにこれらに引き続く政府の議論等では、I C T の活用と少人数によるきめ細やかな指導体制の整備による「個別最適な学び」と、「協働的な学び」を一体的に充実し、子供たちの資質・能力を育成することを求めている。

上記内容を踏まえて、大和村では、「夢や希望を実現し未来を担う人づくり～あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり～」を基本目標とした「魅力ある学校づくり」を一層推進している。極小規模校での学びの充実において、1 人 1 台端末を効果的に利活用し、一人一人の児童生徒の理解度や学習ペース等の実態に応じた学習計画に基づく学びの具現化を目指す。

2 G I G A 第 1 期の総括

国の G I G A スクール構想を踏まえ、令和 2 年度に大和村全児童生徒分に 1 人 1 台端末及び全学校における通信ネットワーク等を整備した。そして、学現場における教科や学習場面に応じた学びのツールとして 1 人 1 台端末の日常的な利活用を図ってきた。授業における 1 人 1 台端末の活用については、調査活動や学習のまとめ、A I ドリル活用による学習内容の定着等で行っているが、個の考えをまとめ、情報を共有したり、比較・検討したりするなど学習者主体の授業改善につながる活用を今後も強力に進める必要がある。また、端末の持ち帰りを積極的に推進し、ドリル課題やレポート作成等を家庭学習で取り組ませることで、児童生徒の学習意欲が維持・向上ができるよう努める。運営支援については、事業者へ委託し、ネットワークトラブル等の早期解決や各学校への派遣等、児童生徒の学習環境に支障が生じないように努めてきた。

しかし、タブレットの容量不足による不具合や故障、破損等によるトラブルが見られるようになってきた。また、児童生徒数の増加、学級数の増加による教員の増加により、端末が不足する自体が生じ、学校間での調整等で対応してきた。また、一部の学校では、ネットワークの接続が不安定で端末操作ができないという事象も起きている。そこで、委託業者と連携しながら各学校の受信状況を点検したり、児童生徒の端末の空き容量を増やしたりするなどの対応をとってきた。

3 1 人 1 台端末の利活用方策

本村では、児童生徒数の増加や容量不足等に起因する諸問題により日常的な授業等の利活用に支障が出かねない状況である。その解決を考慮した手立てとして、令和 7 年 8 月まで、より高度な I C T 環境の充実を図ることで 1 人 1 台端末環境を維持できるよう、全児童生徒分に予備機を合わせた 1 人 1 台端末の更新を行う。また、委託業者による支援を継続し、端末を日常的に活用しながら「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学習」の実現に向けた更なる授業改善をめざす。

(1) 「1 人 1 台端末の積極的活用」

児童生徒一人一人が自分で調べたり、考えをまとめ、発表・表現したりする場面な

どにおいて、自身の学びを広げていくために、1人1台端末を「文房具」として活用できるようにする。また、課題解決や学習調整に1人1台端末を利用し、子供自身が使い方を選択、駆使できるようにする。

端末の家庭への持ち帰りを推進し、学習者用デジタル教科書、AIドリル、授業支援アプリ等を校内及び家庭学習で活用する。

(2) 学びの保障

1人1台端末によって、教師と子供がつながり、子供と子供同士がつながることで児童生徒の学びに伴走します。授業支援ソフトウェアやウェブ会議システムを活用したオンライン学習により学校と学校をつないだ遠隔授業や学校と学校外をつなぎ、さまざまな事情により教室で学ぶことができない児童生徒に対しても、学びを止めない学習環境を整備する。